関西自然保護機構会誌 *25*（*1*）：*55*－*56*, *2003*

近畿地方から絶滅した植物　13

村　田　　源

Extinct plants from Kinki District, Japan. 13. Gen Murata

イトクズモ　ミカヅキイトモ（イトクズモ科）
Zannichellia palustris L. var. *indica*（Cham.）Graebner

淡水または汽水中に生える軟弱な多年生の水草。茎は２節目毎に假軸分枝をくりかえし，側枝が主軸にとって代わる。水底の地中に地下茎がある。葉は節に２～３個ずつ着き，糸状で長さ５～８cm。托葉は茎を抱く。夏，葉腋に花をつける。雄花は１個の雄ずいだけから成り，花被が無い。雌花は壷状の花被の中から２～５個の雌しべが立ち上がり，柱頭部はラッパ状に開いている。果実はやや弯曲した楕円形で長さ約２mm，先に長さ３mmほどの花柱が残る。北半球の温帯に広く分布しているが，ヨーロッパのものは柄が短いといわれる。日本からアジアに産する個体は果時の柄が２～３mmにも伸びるので変種として扱われることが多い。

現在産地は極めて稀となり，北海道，宮城，神奈川，鳥取，岡山，広島，徳島，熊本県に知られているが，秋田県では絶滅し，青森，千葉，島根，山口，宮崎，沖縄の各県では現状不明である（環境庁, 2000）。

近畿地方では泉大津市大津川河口で1968. 7. 13　瀬戸剛採集（No，瀬戸17313）の標本があるのが唯一の記録であったが，その河口も改修されて遂に絶滅した（レッドデータブック近畿研究会, 2001）。なお，この標本は京大博物館，大阪自然史博物館，琵琶湖博物館に保管されている（琵琶湖博資料目録６号, 2002による）。水中に生える草本については，河川の汚濁もさることながら，河川の改変，圃場整備，護岸工事その他の土木工

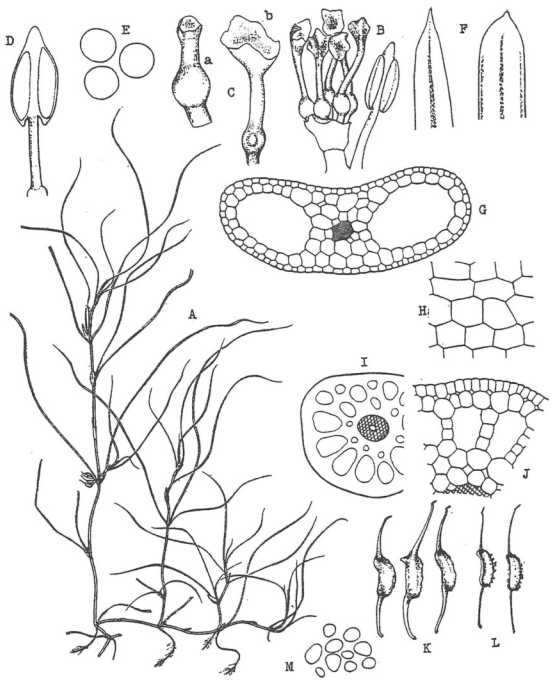


図１． イトクズモ *Zannichellia palustyis* L. var. *indica*（Cham.）Graebner.
A 全形. B 花序. C 雌蕊: a（幼形高倍率拡大図）. b（幼形低倍率拡大図）. D 雄花. E 花粉. F 葉端. G 葉の横断面. H 葉の表皮. I & J 茎の断面: I（低倍率拡大図）. J（高倍率拡大図）. K 果実. L 種子. M 種子内澱粉. 三木茂（1937）「山城水草誌」より引用.

事による環境の改変が大きい原因である。

引用文献

環境庁（編）. 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　植物Ⅰ（維管束植物）. 563pp. 自然環境研究センター. 東京都.

滋賀県立琵琶湖博物館（編）. 2002. 桑島正二植物標本目録（同博物館資料目録６，植物標本Ⅰ）. 323pp. 草津市.

レッドデータブック近畿研究会. 2001. 近畿地方の保護上重要な植物目録 2001 No. 3291. イトクズモ.「改定・近畿地方の保護上重要な植物」（レッドデータブック近畿研究会編），119p. 平岡環境科学研究所. 川崎市.